

地域別公共交通の再編の方向性（板倉区）

1 各路線の評価

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況(H30決算)										再編の考え方①	
			経常費用(千円)	経常収益(千円)	経常欠損(千円)	収支率	国県補助(千円)	市補助(千円)	年間利用者数(人)	市補助/利用者1人(円)	1便当たり利用者数(人)	平均乗車密度	区分	内容
1	島田線	幹線	13,564	2,364	11,200	17.4%	5,003	6,196	8,432	735	2.5	0.9	Ⅲ運行の効率化	・利用が少ない土日の減便を検討
2	山寺薬師線	支線	10,849	1,164	9,685	10.7%	0	9,685	8,735	1,109	1.9	0.5	Ⅱ運行形態の転換等	・乗合タクシー、市営バス等の運行形態の転換を検討 ・利用が少ない土日の減便を検討
3	上関田線	支線	10,558	978	9,580	9.3%	2,193	7,387	6,523	1,132	1.4	0.5	Ⅱ運行形態の転換等	・乗合タクシー、市営バス等の運行形態の転換を検討 ・利用が少ない土日の減便を検討
4	菰立線	支線	5,939	487	5,452	8.2%	0	5,451	4,887	1,115	1.2	0.3	Ⅱ運行形態の転換等	・乗合タクシー、市営バス等の運行形態の転換を検討 ・利用が少ない土日の減便を検討
5	三針線	支線	3,076	291	2,785	9.5%	0	2,785	1,497	1,860	0.6	0.4	I路線廃止	・路線の廃止に該当するが、通学利用があるため、利用がある便を当面維持
6	新井・板倉線	幹線	16,380	5,380	11,000	32.8%	341	4,884	29,778	164	4.1	0.9 2.5	Ⅲ運行の効率化	・利用が少ない土日の減便を検討
合計			60,366	10,663	49,703	17.7%	7,537	36,388	59,852	608	2.3	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■利用の実態

No.	路線	利用の傾向(乗降調査)※	利用の特徴(乗降調査)	再編の考え方②	
				区分	内容
1	島田線	A・B-イ	・朝夕は通学利用が主 ・昼は通院利用が主 ・針・曾根田は利用少	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便	・通学利用が主である朝、夕の上下便を維持し、利用が少ない高田駅へ向かう13時台のダイヤ変更、減便を検討する。 ・利用が少ない土日の減便を検討
2	山寺薬師線	A-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼の利用は少ない	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便	・通学利用が主である板倉中学校へ向かう7、8時台及び山寺薬師へ向かう10、15、16時台の便を維持し、その他の便はダイヤ変更、減便を検討する。 ・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討
3	上関田線	A-ア	・朝夕は通勤、通学利用が主 ・昼の利用は少ない	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便	・通学利用が主である板倉中学校へ向かう7、8時台及び上関田へ向かう10～16時台の便を維持し、その他の便はダイヤ変更、減便を検討する。 ・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討
4	菰立線	A・B-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼、板倉中学校-保健センターは利用少	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便	・通学利用が主である板倉中学校へ向かう7時台及び菰立へ向かう15、17時台の便を維持し、その他の便はダイヤ変更、減便を検討する。 ・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討
5	三針線	A-ア	・朝夕は通学利用のみ ・昼の利用は少ない	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯の減便	・通学利用が主であるコミュニティプラザ前へ向かう7、8時台の便及び清里区総合事務所へ向かう17時台の便を当面維持する。その他の便は減便とする。
6	新井・板倉線	A-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼の通院利用が主	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便	・利用がないコミュニティプラザ前へ向かう6時台の便の減便を検討し、その他の便は通学、通院利用等があることから現状維持とする。 ・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討

■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見(乗降調査)	住民の意見(聞き取り調査)	
1	島田線	・意見なし(0人/47人)	・集落カルテ調査、有恒高校へのアンケートより、上越妙高駅への乗り入れ要望が(1町内会、109人中15人)	・平日は高校生の通学利用があることから、利用が少ない土日の上越妙高駅への試験運行を検討し、利用喚起を図る。
2	山寺薬師線	・意見なし(0人/38人)	・集落カルテ調査より、コミプラでの乗り換えが面倒(1団体) ・板倉中学校PTAより、部活動の終了時間に合わせた19時台のバスの運行(1団体)	・コミプラでの乗り換えは前回再編時に合意済みであり、対応しない。 ・現状朝、夕ともに中学生の利用が少ない中、19時台を設けたところで、利用者増は見込めないため、対応しない。
3	上関田線	・意見なし(0人/42人)	・板倉中学校PTAより、部活動の終了時間に合わせた19時台のバスの運行(1団体)	・現状朝、夕ともに中学生の利用が少ない中、19時台を設けたところで、利用者増は見込めないため、対応しない。
4	菰立線	・意見なし(0人/51人)	・板倉中学校PTAより、部活動の終了時間に合わせた19時台のバスの運行(1団体)	・現状朝、夕ともに中学生の利用が少ない中、19時台を設けたところで、利用者増は見込めないため、対応しない。
5	三針線	・意見なし(0人/11人)	・意見なし	・意見がないため、①②で対応
6	新井・板倉線	・意見なし(0人/163人)	・有恒高校へのアンケートより、新井方面への増便希望(109人中5人)	・具体的な時間を示す要望ではないことから対応しない。

2 区全体の状況

■65歳以上の高齢者の移動先（参考）地域の送迎サービス

	通院目的	買物目的
1位	区内 37.2%	区内 54.6%
2位	妙高市 27.9%	妙高市 22.0%
3位	中央病院周辺 25.6%	中央病院周辺 11.4%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会の割合

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	サロン送迎	板倉まちづくり振興会	区内～板倉保健センター	月2～3回(地区ごとに曜日設定)
2	買い物ツアー	板倉区中山間地域農業振興会	板倉区内全域～市内商店	年1～2回(冬)
3	ねごしの里・ねごしの茶の間	ねごしの里	板倉区内全域～ねごしの里	週2回(火、木)
4	ねごしの里買い物ツアー	ねごしの里	板倉区内全域～市内商店	週1回
5	高齢者筋力向上トレーニング	いたくら桜園	板倉区内全域～いたくら桜園	週2回(火、金)

■高校生アンケート

ダイヤ	・本数を増やしてほしい。(1人) ・12時頃のバスを増やしてほしい。(1人) ・18時～19時の便を増やしてほしい。(1人)
運賃	・運賃が高い。(2人)
鉄道	・本数が少ない。(2人) ・高田方面への7時前半の電車がほしい。(1人) ・混んでいる時間帯の車両を増やしてほしい。(1人) ・人が多いときは全てのドアを開けてほしい。(1人)

■聞き取り調査の状況

実施内容	実施状況	結果
町内会長への聞き取り	50人	・島田線の上越妙高駅経由、中央病院行きの要望
民生委員への聞き取り	20人	・高齢者世帯で困っているという意見はない。
サロンでの聞き取り	26人	・日頃の通院や買い物は家族や親せき、近所の人から車に乗せてもらうことが多い。 ・デマンド予約が面倒
免許返納者への聞き取り	28人	・28人中3人がバス利用者であり、残りは送迎、タクシーを利用 ・バスを利用したいができないと回答した7人中5人がバス停から遠いと回答
合計	124人	-

3 再編の方向性（案）

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	島田線	幹線	・利用者が少ない土日に上越妙高駅への試験運行を検討し、利用喚起を図る。 ・通学利用が主である朝、夕の便の維持、利用の少ない時間帯のダイヤ変更、減便を検討する。 ・利用が少ない土日の減便を検討する。
2	山寺薬師線	支線	・小学校の統合に合わせた運行形態の見直し(乗合タクシー、市営バス) ・通学利用が主である朝、夕の便の維持、利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便を検討する。
3	上関田線	支線	・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討する。
4	菰立線	支線	・通学利用がある朝、夕の便の当面の維持、その他利用がない便を減便とする。
5	三針線	支線	・通学、通院利用がある便の維持
6	新井・板倉線	幹線	・利用が少ない土日の減便を検討、特に利用が少ない日曜日の運行とりやめを検討する。

※幹線と支線の乗換拠点は板倉コミュニティプラザ前

地域別公共交通の再編の方向性（板倉区）



地域別公共交通の再編の方向性（清里区）

1 各路線の評価

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況（H30決算）										再編の考え方①	
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用者数 (人)	市補助/利用者1人 (円)	I便当たり利用者数 (人)	平均乗車密度	区分	内容
1	青柳線	幹線 支線	37,837	8,044	29,794	21.3%	3,614	26,177	32,796	798	3.2	1.0-1.6	III 幹線と支線の分割 (幹線) II 運行形態の転換(支線)	・幹線の短縮、本数の見直し等による効率化を検討 ・支線は、市営バス等への転換を検討
2	三針線	支線	3,076	291	2,785	9.5%	0	2,785	1,497	1,860	0.6	0.4	I 路線廃止	・路線の廃止に該当するが、通学利用があるため、利用のある便を維持
合計			40,914	8,335	32,579	20.4%	3,614	28,962	34,293	845	4.7	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■利用の実態

No.	路線	利用の傾向 (乗降調査) ※	利用の特徴 (乗降調査)	再編の考え方②	
				区分	内容
1	青柳線	A・B-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼は通院、買い物利用が主 ・清里区総合事務所前-赤池は利用少	・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、減便 ・幹線、支線の分割	(幹線) ・利用が少ない高田駅へ向かう下稲塚経由の14時以降の便及び松野木経由の13時台の便のダイヤ変更、減便を検討し、その他の便は通学利用、通院利用等があることから現状維持を検討する。 ・高田駅前から清里区総合事務所を乗換拠点とし、幹線を分割する。 (支線) ・清里区内は清里区総合事務所までの利用が主であるため、清里区総合事務所を乗換拠点とし、赤池までを支線とする。
2	三針線	A-ア	・朝夕は通学利用のみ ・昼の利用は少ない	・利用が多い時間帯の維持 ・利用が少ない時間帯の減便	・通学利用が主であるコミュニティプラザ前へ向かう7、8時台の便及び清里区総合事務所へ向かう17時台の便を当面維持する。その他の便は減便とする。

■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)	
1	青柳線	・医療センター病院経由(3人/218人) ・中央病院経由の増便(2人/218人)	・冬期間の赤池への運行(楡池地区住民6人から要望) ・交通空白地の鷺澤、上中條町内会からバスを通してほしいとの要望(2町内会) ・清里診療所の利用者2人から全便が清里診療所経由の要望(2人とも総合事務所より上からの利用者)	(幹線) ・医療センター病院経由は区内の通院需要が区内や中央病院周辺であるため、対応しない。 ・中央病院経由の増便は現状経路を維持する利用者数に1便当たり約2.2人足りていないため、利用喚起を行う。 (支線) ・市営バス等の導入時に車両を小型化し、冬期間の赤池への運行及び交通空白地への対応を検討する。 ・清里診療所の全便経路は、市営バス等に転換予定の支線部において検討する。
2	三針線	・意見なし(0人/11人)	・意見なし	・意見がないため、①②で対応

2 区全体の状況

■65歳以上の高齢者の移動先（参考）地域の送迎サービス

	通院目的	買物目的
1位	区内 33.3%	板倉区 36.1%
2位	中央病院周辺 30.6%	中央病院周辺 31.9%
3位	その他合併前 27.8%	イオン・上越病院周辺 11.1%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会の割合

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	スクールバス	市	清里区楡池地区(清里小学校区)	平日
2	サロン送迎	NPO法人清里まちづくり振興会	清里区内全域	毎週2~3回(平日)
3	保育園通園バス	市	清里区内全域	毎日

■高校生アンケート

ダイヤ	・休日の部活終わりにバスを利用することがあるがちょうどよい便がない。休日の本数を増やしてほしい。(1人)
バス停	・上稲塚と岡野町の間に団地入口のバス停を作ってほしい。(1人)
待合環境	・バス停が寒い。(1人)

■聞き取り調査の状況

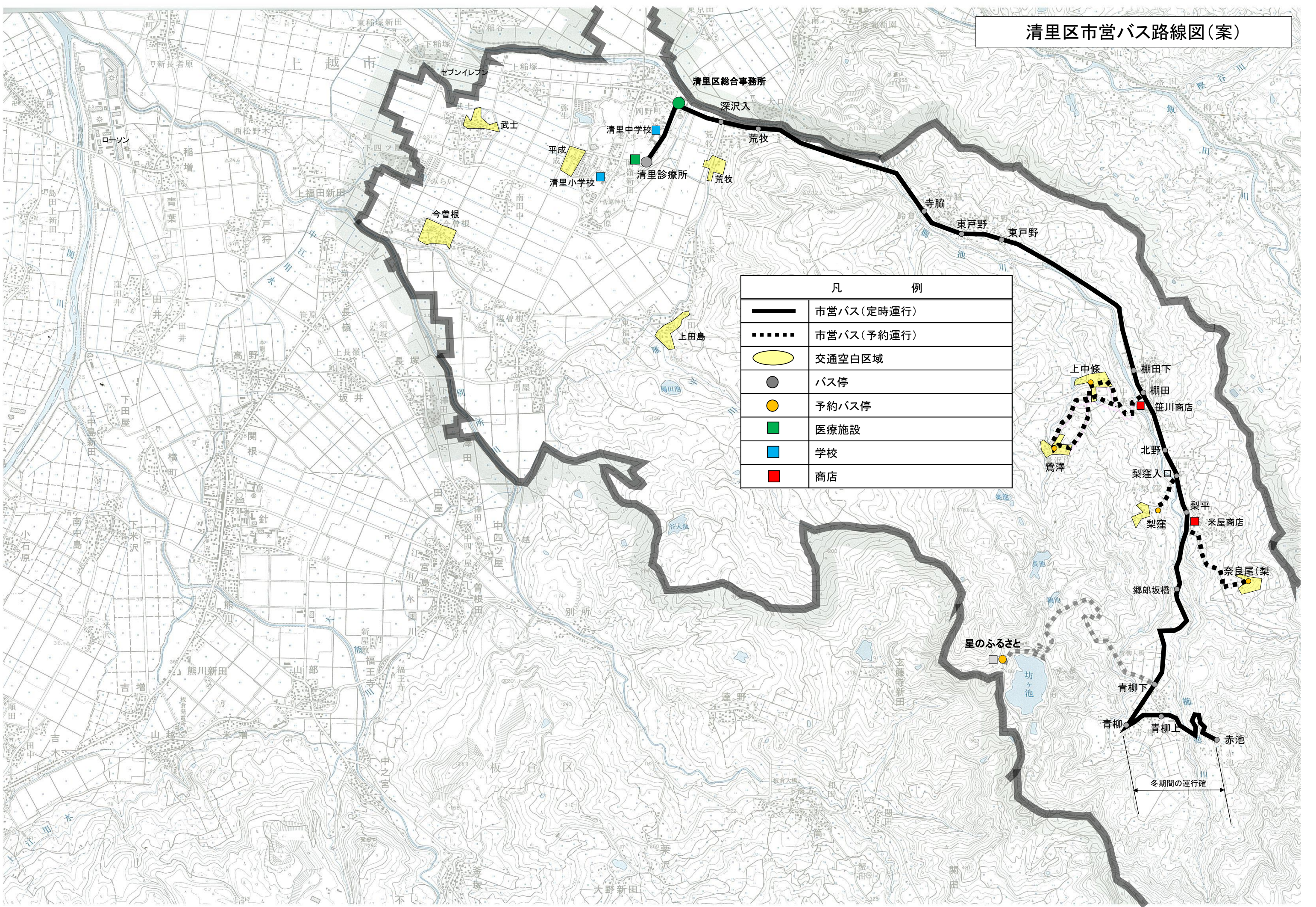
実施内容	実施状況	結果
町内会長への聞き取り	25人	・沿線町内会は現状の路線の維持を希望 ・バスが通っていない町内会からは、車両の小型化による空白地対応の希望
民生委員への聞き取り	8人	・2人が楡池地区はバス停まで遠く、不便だと意見
サロンでの聞き取り	133人	・133人中9割が自家用車、1割がバスを利用 ・赤池のバス利用者から車両を小型化し冬期間もバスを通してほしいとの要望あり ・高齢者のバス利用者からは、バスの乗継は乗り降り、接続が不便なので、今までどおり直通運行を希望
免許返納者への聞き取り	10人	・10人中1人がバス利用者であり、9人は送迎で移動 ・バス停から遠い、利用したい時間に便がない
合計	176人	-

3 再編の方向性（案）

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	青柳線	幹線	・高田駅-清里区総合事務所までの短縮を検討 ・利用の少ない時間帯の便の減便、その他の通学、通院等の利用がある便は現状維持を検討し、効率性を向上
		支線	・清里区総合事務所を乗換拠点とし、市営バス等の導入を検討し効率性を向上 ・車両を小型化し、交通空白地へ対応 ・清里診療所への全便乗り入れを検討 ・現在バスを利用して通学する中学生のためのスクールバス運行を検討(小学生のスクールバスに同乗)
2	三針線	支線	・通学利用のある朝、夕の便の当面の維持、その他利用のない便の減便

※幹線と支線の乗換拠点は清里区総合事務所

清里区市営バス路線図(案)



凡 例	
—	市営バス(定時運行)
- - - -	市営バス(予約運行)
○	交通空白区域
●	バス停
●	予約バス停
■	医療施設
■	学校
■	商店

冬期間の運行確

地域別公共交通の再編の方向性（三和区）

1 各路線の状況

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況（H30決算）										再編の考え方①	
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用者数 (人)	市補助/利用者1人 (円)	1便当たり利用者数 (人)	平均乗車密度	区分	内容
1	水科・今保線	幹線 支線	7,233	1,631	5,602	22.6%	1,369	4,233	7,547	561	3.9	1.7	III 幹線と支線の分割 (幹線)	・幹線と支線の分割、本数の見直し等による効率化を検討 ・支線は、三和区振興会「みんなの足」等への転換を検討
2	真砂・岡田線	幹線 支線	8,077	1,464	6,612	18.1%	2,954	3,658	5,996	610	3.1	1.0	II 運行形態の転換 (支線)	
3	高田・浦川原線	幹線	22,361	5,298	17,062	23.7%	0	17,062	32,044	532	9.4	1.3	IV 現状維持	・水科・今保線等との統合により、減便を検討
合計			37,671	8,394	29,277	22.3%	4,323	24,953	45,587	547	6.3	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■ 利用の実態

No.	路線	利用の傾向 (乗降調査) ※	利用の特徴 (乗降調査)	利用の実態	
				区分	内容
1	水科・今保線	A・Bーア	・朝夕は高田方面への高校への通学利用が主 ・三和区内の利用少	・利用が少ない時間帯のダイヤ変更・利用喚起、減便	・三和区内の利用が少ないため、幹線と支線を分割する。 ・幹線は、利用の少ない昼以降の高田方面行、朝夕の三和方面行等の減便、ダイヤ変更による効率化を検討 ・利用の少ない三和区内は支線とし、運行形態の転換によるきめ細かな運行と効率性向上を検討
2	真砂・岡田線	A・Bーア	・朝夕は附属小への通学利用、通勤利用が主 ・三和区内の利用少	・幹線、支線の分割	
3	高田・浦川原線	A・Bーア	・朝夕は、高田駅方面、浦川原方面、戸野目小への通学利用が主 ・時間帯により利用の少ない区間あり	・利用が少ない時間帯のダイヤ変更・利用喚起、減便	・利用の少ない夕方高田方面の区間短縮、ダイヤ変更等による効率化を検討

■ 地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)	
1	水科・今保線	・ダイヤ、土日の運行等の要望(9人/40人)		・三和区内の路線バスを「みんなの足」等に転換することにより、バスの沿線外の地域も含め、きめ細かな運行を行うことによる利便性向上を検討 ・要望のあった時間帯のダイヤ見直し等を検討し、利便性向上を検討 ・要望のあった安塚高校の下校に係るダイヤ変更はH31に実施済み
2	真砂・岡田線	・ダイヤ、運賃、土日の運行等の要望(12人/40人)	・バスを使わない理由は、「他に移動手段有」が24%、「ステップが高い」が14% ・バスが廃止された場合、区内の移動に「みんなの足」を利用すると答えた人は全体の60.0%、路線バスに乗り継いで区外へ移動すると答えた人は43.7% ※路線バスの沿線外の住民を含む。	
3	高田・浦川原線	・安塚高校への通学に係る乗継時間の短縮、ダイヤの見直し等(26人/200人)		

2 区全体の状況

■ 65歳以上の高齢者の移動先

	通院目的	買物目的
1位	区内 43.8%	四ヶ所周辺 31.3%
2位	高田駅周辺 15.1%	中央病院周辺 15.6%
3位	中央病院周辺 12.3%	高田駅周辺 15.6%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会の割合

(参考) 地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	福祉有償運送	NPO法人三和区振興会	出発または帰着が三和区内であれば市内どこへでも	平日
2	無償運送	NPO法人三和区振興会	三和区内	平日
3	憩いの場 ひなた	NPO法人三和区振興会	利用者宅～三和保健センター	週3回(月、木、金)
4	スクールバス	市	上杉、美守小学校、三和中学校 区全域	12月～3月(三和)

■ 高校生アンケート

ダイヤ	・12時～15時のバスが少ない。(1人) ・17時台のバスがほしい。(1人) ・土日のバスがなくて困る。(2人) ・吉川から頸城に行く13時頃のバスがほしい。(1人) ・ちょうどよい時間のバスがなくあまり使わない。(2人)
運賃	・運賃が高い。(2人)
運行	・バスが遅れる。(1人) ・高校への通学バスを運行してほしい。(1人)
鉄道	・駅まで遠い。(2人)

■ 聞き取り調査の状況

実施内容	実施状況	結果
町内会長への聞き取り	46人	移動に支障があると思われる人の所在について聞き取り
サロンでの聞き取り	8人	・区内を巡回するバスがあれば利用するとの意見あり
戸別訪問	88人	・交通手段は、送迎35%、バス(みんなの足含む)19%、自転車12%
免許返納者への聞き取り	12人	・11人が家族等の送迎、1人は徒歩・自転車により移動 ・移動に困っていると答えた3人は、バスは1日がかりの移動になること、総合事務所や病院へのアクセスが悪いとの意見
合計	154人	—

3 再編の方向性（案）

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	水科・今保線	幹線	・高田駅～三和区総合事務所間までに短縮、利用の少ない時間帯の減便を検討し効率性を向上 ・ダイヤの改善等により利便性を向上
		支線	・三和区内の路線バスを「みんなの足」に転換し、きめ細かな運行により利便性を向上するとともに、効率性を向上
2	真砂・岡田線	幹線	・高田駅～錦間までに短縮、利用の少ない時間帯の減便を検討し効率性を向上 ・ダイヤの改善等により利便性を向上
		支線	・三和区内の路線バスを「みんなの足」に転換し、きめ細かな運行により利便性を向上するとともに、効率性を向上
3	高田・浦川原線	幹線	・水科・今保線との重複解消により、減便等を検討し、効率性を向上 ・ダイヤの改善等により利便性を向上

※幹線と支線の乗換拠点は、三和区総合事務所を検討

地域別公共交通の再編の方向性（三和区）

再編1 幹線と支線の分割

- ・真砂・岡田線、水科・今保線について、高田駅から総合事務所、錦までを幹線、三和区内を支線として分割

高田駅 ←

再編2 幹線路線の運行効率化

- ・真砂・岡田線、水科・今保線の短縮、高田・浦川原線との統合・減便による効率化
- ・ダイヤ等の見直しによる利便性向上

再編3 小型車両によるきめ細かな運行

- ・三和区内は小型車両によるデマンド運行を導入
- ・運行形態は、NPO 法人三和区振興会「みんなの足」等を検討



地域別公共交通の再編の方向性（名立区）

1 各路線の状況

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況(H30決算)										再編の考え方①	
			経常費用(千円)	経常収益(千円)	経常欠損(千円)	収支率	国県補助(千円)	市補助(千円)	年間利用者数(人)	市補助/利用者1人(円)	1便当たり利用者数(人)	平均乗車密度	区分	内容
1	名立線(1)	幹線	12,196	1,219	10,977	10.0%	2,872	8,105	6,371	1,272	2.9	0.5	Ⅲ運行の効率化	・能生線、桑取線との重複解消、減便等を検討
2	能生線	幹線	10,746	3,140	7,606	29.2%	1,386	2,847	13,051	218	11.3	2.0	Ⅳ現状維持	・「現状維持」であるが、名立線、桑取線との重複があるため、重複の解消、減便等を検討
3	市営バス	支線	19,535	1,033	18,502	5.3%	4,910	13,592	53,520	254	9.1	-	Ⅳ現状維持	・現状維持とし、利便性の向上を検討
合計			42,476	5,392	37,085	12.7%	9,168	24,544	72,942	336	7.9	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■利用の実態

No.	路線	利用の傾向(乗降調査)※	利用の特徴(乗降調査)	利用の実態	
				区分	再編の考え方①
1	名立線(1)	A・Bーア	・朝は通勤通学、夕は通勤の利用 ・昼、労災病院周辺は利用少	・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、利用喚起、減便	・名立線、能生線、桑取線の重複解消(重複している時間帯:7時、9時台の労災病院行、12時、15時台の労災病院発)の検討とあわせ、利用の少ない便(朝の名立方面行、午後の直江津方面行)のダイヤ変更、減便を検討
2	能生線	Aーア	・朝は磯部小の通学と能生方面からの通院 ・昼は通院、下校利用 ・直江津方面行の昼は利用少	・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、利用喚起、減便	
3	市営バス	Aーイ	・朝夕は通学利用が主 ・朝は通院利用あり ・昼は利用少	・利用喚起	

■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見(乗降調査)	住民の意見(聞き取り調査)	
1	名立線(1)	・増便の要望(2人/50人)	・路線から離れている丹原、鍋ヶ浦、吉浦、茶屋ヶ原の町内会長、民生委員への聞き取りでは、小中学生や高齢者はバス又は送迎で通学、通院等しているが、公共交通による対応が必要な住民は現状いないとのこと。	・能生線、桑取線との重複解消の検討とあわせ、ダイヤ変更、減便を検討
2	能生線	・増便の要望(4人/97人)		・名立線、桑取線との重複解消の検討とあわせ、ダイヤ変更、減便を検討
3	市営バス	・能生線等との乗継改善(10人/108人)、増便(7人)の要望あり	・ろばた館に行きやすいダイヤ設定、集落内へのバス迂回の意見あり(赤野俣、濁沢)	・小・中学校の登下校の時間への影響が大きいため、現在の路線及びダイヤを維持

2 区全体の状況

■65歳以上の高齢者の移動先

	通院目的	買物目的
1位	直江津駅周辺 32.7%	直江津駅周辺 43.6%
2位	イオン・上越病院周辺 26.5%	イオン・上越病院周辺 28.2%
3位	区内 16.3%	区内 12.0%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会の割合

(参考) 地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	おでかけ会	濁沢、峠、折居、丸田町内会	名立区～直江津、高田、能生方面等	月1回(4月～12月)
2	買い物支援	名立区住民福祉会	名立区～直江津方面等	月1回
3	病院送迎	ひらはら内科クリニック	名立区内	平日、第1、3、5土曜日

■高校生アンケート

ダイヤ	・ダイヤが通学に合わない。(3人)
-----	-------------------

■聞き取り調査の状況

実施内容	実施状況	結果
町内会長への聞き取り	35人	・運転ができない64世帯の移動手段は、家族等の送迎が最多(買物68.7%、通院60.9%)
サロンでの聞き取り	96人	・運転しない人の移動手段は家族等の送迎が66.3%、バスは20.5%
戸別訪問	58人	・交通空白地の高齢者に聞き取り ・市営バスを利用しない51人の理由は、自分で運転する又は家族等から送迎してもらおうからとした人が82.4%、バス停が遠いとした人は5.9%
合計	189人	ー

3 再編の方向性（案）

No.	路線名	区分	再編の方向性
			※①～③は、上記1の「再編の考え方」の番号
1	名立線	幹線	・名立線、能生線、桑取線の重複解消(重複している時間帯:7時、9時台の労災病院行、12時、15時台の労災病院発)の検討
2	能生線	幹線	・利用の少ない便(朝の名立方面行、午後の直江津方面行)のダイヤ変更、減便を検討
3	市営バス(東飛山線)	支線	・バスの利用頻度が高いと見込まれる高校生等を対象とした学生定期券の導入の検討 ・土休日のバス利用促進、イベントや施設利用等の促進や地域の交通手段の応援意識の醸成を目的とした土休日の乗り放題乗車券の導入の検討

※幹線と支線の乗換拠点はいずれも名立コミュニティプラザ

地域別公共交通の再編の方向性（名立区）



地域別公共交通の再編の方向性（正善寺線、斐太線、青田線）

1 各路線の評価

(1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況(H30決算)										再編の考え方①	
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用 者数 (人)	市補助 利用者 1人(円)	1便当たり 利用者数 (人)	平均乗 車密度	区分	内容
1	正善寺線	支線	4,901	806	4,095	16.4%	0	4,094	5,740	713	3.0	0.6	II 運行形態 の転換等	・乗合タクシー、市営バス等の運行 形態への転換を検討
2	斐太線	支線	5,201	633	4,568	12.2%	0	2,583	2,363	1,093	1.6	0.6	II 運行形態 の転換等	・青田線との統合、乗合タクシー、市 営バス等の運行形態への転換を検討
3	青田線	支線	3,197	580	2,618	18.1%	0	2,582	2,499	1,033	1.7	0.7	II 運行形態 の転換等	・斐太線との統合、乗合タクシー、市 営バス等の運行形態への転換を検討
合計			13,299	2,018	11,281	15.2%	0	9,259	10,602	873	2.2	-		

(2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

■利用の実態

No.	路線	利用の傾向 (乗降調査)	利用の特徴 (乗降調査)	再編の考え方①	
				区分	内容
1	正善寺線	A-ア	・朝、夕は飯小学校の通 学利用が主 ・15時台は利用なし	・利用が少ない時間帯の ダイヤ変更、利用喚起	・ダイヤ変更による利便性の向上を検討
2	斐太線	C-ア	・他市をまたいでの利用は ほとんどなし ・夕方の利用はほぼなし	・利用が少ない時間帯、区 間のダイヤ変更、ルート見 直し	・他市をまたぐ利用がほとんどないことから、妙高市の区間 と分割し、ルート、ダイヤ変更による利便性の向上を検討
3	青田線	A-ア	・朝、夕はかなやの里、西 城病院への通勤利用が主 ・昼は通院利用が主 ・昼は利用少	・利用が少ない時間のダイ ヤ変更、利用喚起	・ダイヤ変更による利便性の向上を検討

■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		再編の考え方③
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)	
1	正善寺線	意見なし(0人/41人)	・上・中・下正善寺町内会の全戸訪問で、ダイヤ改善の要 望が11人、運行形態は乗合タクシーでもよいとする意見が 23人であった(61人中) ・その他の町内会では飯町内会以外は困っているという意 見はなかった。 ・飯町内会では3人がバス停までの距離で困っているとの意 見だった。	・ダイヤの改善による利便性向上を検 討 ・乗合タクシーへの転換を検討
2	斐太線	高齢者割引1人、増便 1人要望あり(29人中)	・各町内会長、民生委員に聞き取りを実施したところ、地頭 方町内会以外からは困っているという意見はなかった。 ・地頭方町内会で実施した個別聞き取りでは、いずれもバ スのステップが上がれないという意見だった(1町内会3人)	・車両の小型化を検討
3	青田線	意見なし(0人/28人)	・各町内会長、民生委員への聞き取りから、灰塚、中田原 以外の町内会からは困っているという意見はなかった。 ・灰塚町内会で実施した個別聞き取りで、ダイヤ改善の要 望が2人だった(18人中) ・中田原町内会で実施した個別聞き取りで、免許返納後に 困るといふ1人以外困っている人はいなかった(6人中)	・ダイヤを改善し、利便性の向上を検討

2 区全体の状況

■65歳以上の高齢者の移動先

(正善寺線沿線)

	通院目的	買物目的
1位	金谷地区 72.2%	金谷地区 100.0%
2位	中央病院周辺 27.8%	-

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会
の割合

(斐太線・青田線沿線)

	通院目的	買物目的
1位	上越妙高駅周辺 66.7%	上越妙高駅周辺 87.9%
2位	高田駅周辺 中央病院周辺 各10.0%	高田駅周辺 9.1%
3位	イオン・上越病院周辺 金谷地区 各6.7%	妙高市 3.0%

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会の割合

■聞き取り調査の状況

実施内容	実施状況	結果
町内会長への 聞き取り	21人	【正善寺線】上・中・下正善寺町内会では戸別訪問実施。 その他町内会は5割が徒歩、3割は送迎で移動の傾向。会長 への聞き取りから、飯町内会(3人)以外では困っていない という結果だった。 【斐太・青田線】灰塚、中田原ではアンケートを実施し必 要に応じ聞き取りを実施(町内会長の意向)。その他町内 会では5割が送迎、3割が徒歩で移動。地頭方町内会(3 人)以外では困っていないという結果だった。
民生委員への 聞き取り	10人	・飯町内会、地頭方町内会で困っている6人を除いて、他 の町内会では移動手段を確保しており困っていないという 結果だった。
戸別訪問	91人	【正善寺線】 ・61人に聞き取りを実施し、6割が自家用車、2割が送迎で 移動。現行のダイヤ改善を求める意見(11人)、乗合タク シーでもよいという意見(23人)が多数。 ・飯町内会で3人に個別聞き取りをしたところ、困ってい る理由としてバス停までの距離という回答だった。 【斐太・青田線】 ・地頭方町内会では3人に個別聞き取りをしたところ、 困っている理由としてバスのステップが上がれないという 回答だった。 ・灰塚町内会では18人から聞き取りを行い、ダイヤ改善の 要望が2人だった。 ・中田原町内会では6人に個別聞き取りをしたところ、免 許返納後に困るといふ意見が1人だった。
免許返納者へ の聞き取り	114人	・合併前上越市の交通空白地(一部空白を含む)に居住す る114人に聞き取りを実施。
合計	236人	-

3 再編の方向性(案)

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	正善寺線	支線	・乗合タクシー等への転換を検討し、効率性を向上 ・ダイヤ変更により利便性の向上を検討し、利便性を向上
2	斐太線	支線	・乗合タクシー等への転換を検討し、効率性を向上 ・妙高市の区間と分割、青田線と統合し、上越妙高駅、上中田 S Cへの乗り入れ、ダイヤ変更を検討するなど、利便性の向上 を検討
3	青田線	支線	・乗合タクシー等への転換を検討し、効率性を向上 ・斐太線と統合し、上越妙高駅、上中田S Cへの乗り入れ、ダ イヤ変更を検討するなど、利便性の向上を検討

※幹線と支線の乗換拠点は、正善寺線:高田駅、青田線・斐太線:高田駅、上越妙高駅

地域別公共交通の再編の方向性（正善寺線）

